



は じ め る 道徳

— 教材の見方と授業の工夫 —



三重県教育文化研究所
「道徳教育」課題研究委員会

はじめに



2018年4月、ついに小学校において「特別の教科 道徳」が本格実施されました。それに先立ち、2017年夏、三重県の各市町でも教科書採択がおこなわれました。

三重県教育文化研究所では、道徳の教科化に伴う現場教職員の不安の声をもとに、2015年度末より教科化の問題点や「道徳教育のあり方」について調査・研究をすすめてきました。そして「できるだけ正確な情報と課題、実践に向かう視点」を伝えようと、2017年春にはリーフレット『「特別の教科 道徳」って、どうするの?』を出したところです。

一方で、各地域で教科書採択がすすむにつれ、学校現場が必要としているのは「教材分析の視点や授業実践事例」ではないのかという事務局が当初から抱いていた思いも再燃し始めました。そこで2017年12月、「小学校において道徳の授業をどうすすめるか」をテーマに教材研究と授業研究を中心とした「第2期『道徳教育』課題研究委員会」を開催することになりました。わずか4か月間でしたが、6人の課題研究委員の問題意識と熱意、そして当該学校のご協力を得て、5回の研究会と研究委員全員による授業研も実施してきました。

本冊子には、県内どの採択教科書にももれなく入っている2編の教材を取り上げ、教材分析ならびに「挿絵」や「テーマの提示の仕方」や「子どもの実態とのかかわり」等について、他の教材でも参考にしていただけるよう、「教材を見る視点」をまとめました。

また、取り上げた教材2例を使って授業をおこない、「教員の陥りやすい点」や「道徳の授業展開に必要な要素」等、授業結果をもとに議論したことをまとめました。実際の指導案や授業記録も、授業者の「失敗だった」という部分も、そして授業者のさまざまな授業の工夫も苦悩もそのまま記載してあります。

道徳教科書を前に、「さて、道徳の授業をどうしよう」と思われた時、多くの既成「道徳ワークブック」見本を前に「考える時間もないので頼ってしまおうか」と思われた時、ちょっとこの冊子を開いてみてください。

本冊子には、採択された教科書教材をまずは扱ってみることを前提に「価値観の押しつけにならないこと」、「正解が一つしかないという意識を、子どもたちにもたせてしまわないこと」、「画一的な指導にならないよう、子どもたちの心が揺れる授業をつくること」を目標に、みなさんと同じように悩みながら授業づくりに奮闘する仲間の姿があります。

あくまで「学びの主体は子どもたち」です。目の前の子どもの実態をふまえた教育研究・教育実践をすすめていただけますように、本冊子が、この4月から「特別の教科 道徳」に向きあわれているみなさんの「道徳の授業をどうすすめるか」を考える一助になれば幸いです。

2018年7月1日

三重県教育文化研究所 事務局

CONTENTS



はじめに	1
1. 教材分析	3
三重県の採択教科書 かぼちゃのつる お母さんの請求書（ブラッドレーの請求書）	
2. 授業の工夫と課題	8
「かぼちゃのつる」の授業実践にあたって、 ポイントや大事にするところ 「ブラッドレーの請求書」の授業実践にあたって、 ポイントや大事にするところ 学習指導案 かぼちゃのつる 学習指導案 お母さんの請求書（ブラッドレーの請求書）	
3. 座談会	30
4. 道徳の授業を考えるとときにふまえたい5つの要素 －まとめにかえて－	38
付記 評価について	41
編集後記／「道徳」教育課題研究委員会	42
資料「特別の教科 道徳ってどうするの」	